

発信力も併せ持つ真の研究者

岡部光明

かつて、若手研究者として颯爽と登場した池尾和人さん。私がお名前前に初めて接したのは、今から三十七年も前のことである。その後、個人的にも色々関わる機会を得ることができたのは、この上なく幸いなことであった。

私が日本銀行に在職していた一九八五年、「金融研究会―銀行経営と信用秩序―」という日銀金融研究所主催のパネル討論会があった。そこにおいて池尾さん(当時岡山大学助教授)は「わが国の金融自由化は、単なる規制撤廃ということを越えて『システム転換の過程』として理解すべきである」という極めて斬新なコメントを発表された(注一)。そのような視点は私にとって大きな驚きであり、その後、私は色々な機会に池尾さんから継続的にご教示をいただいた。ただ、一九九〇年から約四年間は、私が海外の大学(米プリンストン大学など三大学)に在籍していたので、直接接触する機会はほとんどなかった。

ところが、びつくりする機会が訪れた。それは一九九四年四月、池尾さんは慶應義塾大学の経済学部(三田キャンパス)に、そして私は同大学の総合政策学部(湘南藤沢キャンパス)にそれぞれ着任した。神様は何という計らいをされたのかと思う。それに伴い、私は池尾さんと同じ大学で、そして程よい距離感をもって次第に懇意になることができた。

着任二年目のことだが、池尾さんから、池尾ゼミと岡部ゼミの合同ゼミナール開催の提案をいただいた。このインターゼミは、その後、私が慶應を退任するまで毎年秋学期に開催した。また、私が仕上げた金融論の二分冊『現代金融の基礎理論』と『環境変化と日本の金融』を池尾さんに献呈したときのことである。当時、日本金融学会の機関誌編集委員であられた池尾さんは「この二冊を併せて岩田一政氏(東京大学、現日本経済研究センター)に書評を書いてもらいましょう」というご提案をいただき、それを実現させて下さった。さらに、私が学位論文を慶應大学に提出したとき、池尾さんが論文審査委員として加わってくださったのも、この上なく光栄なことであった。

そして、次々と刊行されるご著書をいつもご恵贈くださった。これらのうち『現代の金融入門』や『なぜ世界は不況に陥ったのか』など、私のゼミナールの輪読テキストとして採用したのも少なくない。

多くの方々が感じられていることだが、私も池尾さんの説得力と発信力にいつも感服してきた。ご著作は、どれも平易な文章で書かれているが、論旨は明快そして説得的である。座談会やインタビュー発言の記録についても同様である。なぜ、こうした特徴と魅力を備えているのだろうか。

それは、単に国内外の最新研究をフォローしたうえで議論を展開しておられるからというのではない。おこがましい言い方だが、池尾さんは各種論文の読み込みが実に深く、そして最も本質的なことをそこから取り出し、咀嚼し、そして自分のものにしておられたように思う。だから、専門的な概念を議論する場合でも、単なる受け売りではなく、ご自身が納得できるご自身の言葉で述べられるからではないか。

それと同時に、池尾さんの議論や見解は常に「本心」から出てくる点に特徴があったと私は感じている。「建前」の議論をされることはない。建前論ならばどこかに「本音」が潜んでおり、いずれそれが見透かされてしまう。つまり、研究者としての池尾さんの議論や主張には、誠実さ（インテグリティ）があった。池尾さんの著作や発言は、このようにして稀有な説得力と発信力を持つものとなり、訴える力が強かった（相手の心に響いた）のだと思う。

こうした素晴らしい研究者と知りあい、そしてその研究姿勢を学ぶことができたのは、何と幸いなことだったか。私としては、一方的にいただくばかりであり、当方からお返しできたものはこれといって思いつかない。私はまったく債務超過の状態である。そして、今となつては、その債務を池尾さんに直接返済（ペイ・バック）する機会は失われてしまった。私にできるのは、池尾さんからいただいた恵みのお返しは、第三者に施す（ペイ・フォワード）しかない。

私自身のこの一〇年間の関心は、当初の金融論から大きく変化し、主流派経済学には変革の余地があるとする方向での新しい研究である。つまり、経済学には人間の本性（利己心だけでなく、利他心、つながり感覚、潜在能力など）をもっと取り込んだ発想をしなければならぬ、という観点からの具体的展開である。それを取りまとめた書籍は間もなく刊行されるので（注二）、その視点を若手研究者に訴えていきたい。その本は、国内外にみられる研究の受け売りではなく、私の本心に従って書いたもの

である。池尾さんは、こうした私を天国からご覧になり、やさしく微笑んで下さっているのではないか、と勝手に想像している。

(注一) 池尾和人(一九八五) 「3論文に対するコメント」、金融研究会―銀行経営と信用秩序―日本銀行金融研究所『金融研究』四巻二号、七六―八〇ページ。

(注二) 岡部光明(二〇二二) 『ヒューマノミクス―人間性経済学の探究』日本評論社、五月刊行予定。

(慶應義塾大学名誉教授)